

だい かいさっぽろしじりつしえんきょうぎかい
第 3 2 回札幌市自立支援協議会

ぎ じ ろく
議 事 録

にちじ れいわ がんねん がつ にち か ごご じ ふんかいかい
日時：令和元年5月21日（火）午後6時30分開会

ばしょ さっぽろしやくしよほんちようしゃ かい ごう ごうかいぎしつ
場所：札幌市役所本庁舎 12階 1号～4号会議室

1. 開 会

○事務局（石田就労・相談支援担当係長） 定刻となりましたので、第32回札幌市自立支援協議会を開始いたします。

私は、札幌市障がい福祉課就労・相談支援担当係長の石田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、事務局よりご報告がございます。

西区地域部会長の黒田委員が去る4月17日にご逝去されました。ご生前中、本市の障がい福祉行政にご尽力いただいたことに深く感謝の意をあらわすとともに、心からお悔やみ申し上げます。

次に、委員の出席状況ですが、年間活動報告書の238ページの委員名簿をご覧ください。

今回から新たに委員に就任された方がいらっしゃいますので、ご紹介をさせていただきます。相談支援部会長であった杉田委員の後任の社会福祉法人札幌療育会相談支援事業所ノック所長の荒川委員です。

白石区地域部会長の渡邊委員の後任の株式会社シムス代表取締役の斎藤委員です。

次に、委員の就任手続中ですが、西区地域部会長の社会福祉法人札幌三和福祉会三和荘福祉施設長の前田様がお出席されております。

札幌市自閉症・発達障害支援センターの山本委員が都合によりご欠席されており、代理として同センターの坂井様がお出席されております。

また、子ども部会会長の北川委員が欠席となっております、代理として妻の子会の金澤さんがお出席されております。

なお、北海道難病連代表理事の増田委員、札幌市教育委員会学校教育部学びの支援担当課の北原委員も欠席となっております。

旭山病院の東谷委員につきましては、遅刻されるというご連絡をいただいております。

それでは、新しく就任された荒川委員、斎藤委員、前田様から、一言ずつお願いできればと思っております。

○荒川委員 相談支援部会の部会長となりました荒川です。よろしく願いいたします。

部会の取り組みなどをお話ししたいと思います。

今の部会の取り組みとしては前年度の継続となっております。四つのエリアに分けて、それぞれのエリアで会議などを年4回くらい開催しているところです。

運営に工夫していることといたしましても、エリア単位で会議をして活発な議論をするということくらいしかないので、相談支援はかなり忙しく、障がい福祉分野以外の機関からのご相談なども受けているところです。区内の地域部会やネットワークづくりなど多岐にわたった取り組みがある中で、今すぐに何か新しい取り組みをするということはない状況です。

昨年地震がありまして、各部会などでも災害の話題にはなっていると思うのですが、災害

に関するガイドラインをワン・オールで作成していただきました。現在、それを参考に、それぞれの事業所で何かマニュアル的なものを作成しましょうということで、今年2月の部会の定例会で承認されたところです。今後の部会では、その進捗を確認していくことになっております。

部会の報告を兼ねてご挨拶でした。よろしく願いいたします。

○斎藤委員 白石地域部会の斎藤です。

隣にいる渡邊貢さんに4年間やっていただきましたが、退任されることになりました。その前は岡本直樹さんで、白石は障がい当事者の方が8年間にわたって会長をしており、引き続き当事者の方に会長をお願いしたいと思ったのですが、若い方が誰も引き受けてくなくて、やむを得ず、私が会長をしております。

○前田さん こんばんは。

西区地域部会の黒田会長が急逝されまして、急遽やってくれと頼まれました。

札幌三和福祉会三和荘で施設長をさせていただいている前田と申します。

こういう場は本当に初で大緊張です。ただでさえ上がり症なのですが、なったからには、西区の地域部会のことをできる限り伝えたり、ほかの地域部会のいろいろなアイデア等を吸収して具体化させていきたいと思っております。

勉強させていただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

○事務局（石田就労・相談支援担当係長） 続いて、資料の確認をいたします。

まず、次第を配付しております。次第に配付資料を記載しておりますが、一つ目として、平成30年度札幌市自立支援協議会年間活動報告書という冊子です。二つ目として、平成30年度札幌市自立支援協議会年間活動報告書「別冊：防災のまとめ」という冊子です。三つ目として、札幌市自立支援協議会各区地域部会からのお知らせというA4判1枚表裏の資料があります。四つ目として、さっぽろ障がい者プラン2018の見直しと実態調査についてというA4判の1枚表裏の資料です。五つ目として、札幌市自閉症・発達障害支援センター主な活動報告と令和元年度方針というA4判1枚表裏の資料があります。

資料は以上ですが、不足などがありましたらお知らせください。

なお、この協議会については公開となっております。

ご発言の際は、情報保障の観点から、所属と名前を述べられてから、なるべくゆっくりのご発言ください。また、傍聴されている方々におかれましては、ご発言はできませんので、配付しております意見参加シートにご意見やご要望をご記入の上、そのまま机の上に置いてお帰りください。皆様の貴重なご意見を今後の会議運営に反映させていきたいと考えております。

また、本日の全体会の様子ですが、差し支えなければ写真を撮らせていただき、開催時の様子として、札幌市役所のホームページやワン・オールのホームページにて掲載させていただきますと考えております。そういった写真には写りたくないという方がいらっしゃいましたら、あらかじめ申し出てください。写真に写らないように配慮いたします。

それでは、議題に移りますが、ここからは永井会長に議事進行をお願いいたします。

2. 議 事

○永井会長 皆様、こんばんは。

今ご紹介いただきました自立支援協議会会長をしております永井です。よろしくお願い致します。

今日は、遅い時間からお忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございます。

新しい方もいらっしゃいますので、簡単に自己紹介も兼ねてと思いますが、私はひごろは北星学園大学社会福祉学部で、精神保健福祉士の養成をしております。

札幌市自立支援協議会の会長になりましたのは平成27年度ですから、今年度は令和となりまして、元号をまたいで5年目になります。その点で言うと会の状況なども大分理解できてきたかと思ひ、この間、いろいろと運営会議全体会の皆様のご協力もあって、自立支援協議会の体制を整えることが少しずつ進んでいるのではないかと考えています。

今年度も、新しい課題やこれまで積み残していることなども数多くありますので、皆様のご協力をいただき、札幌市の障がい者福祉の発展に少しでも寄与できるよう努めてまいりたいと思ひますので、引き続き、どうぞよろしくお願い致します。

ここからは座らせていただきます。

毎回のことですが、全体会は年3回ほど開催していて、毎回盛りだくさんの話題の中で、皆様からこれまでの取り組みを短い時間で報告いただくような形になっております。配付資料もかなりボリュームがあつてお持ち帰りも大変というところですが、活動の成果とご理解いただきまして、今日ご紹介できる範囲のところをご覧いただくのと、改めて持ち帰って参照していただけますと幸いです。

まず、自立支援協議会の組織については、ご承知の方がほとんどであると思ひますが、新しい方がいらっしゃいまして、かつ組織がなかなか複雑となっております。前回、その点についてのご指摘があつたこともあり、反省としまして、今日お配りしている年間活動報告書の最後の239ページと240ページに、札幌市自立支援協議会の組織図等を載せております。

今日、この後、地域部会、専門部会、さらにはプロジェクトチームからの報告が予定されておりますけれども、それぞれの関係については、239ページの札幌市自立支援協議会組織図のとおりとなっております。このような各部会等が協力して札幌市自立支援協議会を構成しているということで、全体会の場ではその活動を共有するということが意味となっております。

それでは、本日は、今申しましたとおり、次第に沿って報告・協議を行っていくことになっております。限られた時間の中ですので、一定程度まとまって報告等をしていただいて、その後にご意見、ご質問を伺う流れとなります。終了の目安は8時30分としております。円滑な進行ができるよう努めてまいりたいと思ひます。

しかし、ご遠慮なくご意見はいただきたいということですので、委員の皆様におかれましては、今後の部会、プロジェクトの活性化のため、お気づきの点についてご意見、ご質問等を積極的にご発言していただきたいと思っています。

それでは、早速、年間活動報告書の主に地域部会の報告から始めていきたいと思っております。お手元の年間活動報告書の順番に沿って、各部会から主に運営で工夫していることや困っていること、そして、今年度は、先ほど荒川委員からもご指摘がありましたけれども、昨年度は震災がありまして、各地域部会では、防災に関する取り組みについても取りまとめをしていただいています。本日は、別冊に防災に関するまとめを載せておりますけれども、こちらをあわせて簡単にご報告をお願いいたします。

まことに無理な注文で申しわけなく思いますが、各部会の防災に関することも含めて、3分程度を目安としてご報告をお願いいたします。

それでは、早速、中央区地域部会からお願いたします。

○妻倉委員 中央区地域部会の妻倉と申します。よろしく願いたします。

それでは、中央区地域部会の発表をさせていただきます。

資料の1ページ目と2ページ目に、昨年度の活動実績と今年度の活動予定を載せております。

2ページ目に、部会運営で工夫していることや困っていること、今後取り組んでいきたいことなどを掲載させていただきます。

今年の活動予定は、例年どおり、勉強会プラス実践交流会の2本立てで行う予定です。今までは「勉強会」と「実践交流会」という言葉を使っていたのですが、初めての方や若い方にもぜひ参加していただきたいということで、勉強会については「まなびば」、実践交流会については「しゃべりば」という表現でこれからご案内させていただこうと思っております。

また、困っていることにつきましては、中央区特有の地域課題があるのではないかとということで、そこをどう解決していくかということがあります。それから、地域部会の特性なのか、医療、児童、高齢者関係の参加者が少なく、ほかの方の人数も減ってきていますので、そこをどうやって底上げするかということで困っております。

今年度は、4月と5月にまなびばとしゃべりばをさせていただいたのですが、4月は、よくある倫理綱領などかた苦しいところではなく、相談室の職員60名くらいの方に来ていただきまして、ご自身の実践を通して、福祉に携わる職員としてどういう意識を持たなければいけないのかということをご一緒に勉強しました。

また、今月の定例会では、グループワークということで、これも制度ではなく、職員の方はこうしてやっているのですという勉強会になります。一つは、何カ所かのマンションの部屋をグループホームとしているところの方と、二つ目は、一部屋を借りて皆さんでシェアする形の方と、三つ目は、デザイナーズマンションのようなちょっとおしゃれなお部屋をグループホームにされている方ということで、ちょっとユニークなグループホームの勉強会

をさせていただきます。今年度はこのほかに7回予定しておりますので、ほかの地区からもぜひ参加していただけたらと思います。

また、昨年度の活動報告の詳細につきましては、資料の231ページの参考資料のところに、中央区で勉強した題や参加者人数などを具体的に書いておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、北区地域部会からお願いいたします。

○和田委員 北区地域部会の和田でございます。よろしくお願いたします。

北区地域部会のご報告をさせていただこうと思います。

資料の3ページと4ページ、5ページにわたって報告書をまとめさせていただいておりますが、昨年行った内容は、ここを読んでいただければおわかりいただけると思います。また、令和元年度の活動予定についても見ていただければおわかりいただけると思います。

工夫していることや困っていることは、毎回言っているのですが、地域部会の周知が依然として不足しているの中で、今年度はさらに工夫を凝らした広報活動をしようと考えております。まず、手始めに、自立支援協議会のあり方のそもそもの理屈というか、理論武装といったところを運営委員会で勉強しようということで、ワン・オールさんのご協力を得て活動する予定をしております。

防災に関するまとめについては、別冊の資料9ページから12ページです。

これも見ていただければ大体おわかりになると思いますが、北区では11月と3月に防災に関する講演とグループワークを行っておりまして、そこで出てきた内容をおまとめさせていただいたのがこの資料になっております。その内容については読んでいただければおわかりになると思うのですが、その中で、今後、力を入れていかなければならないところが、支援者間の連携、横のつながりの大切さというところです。

昨年の震災を通じて、実際に起きてみると何もできない状況があることを身にしみてわかったという中で、北区としては防災にいろいろと力を入れているところです。今年度は、そこを改めて見詰め直す中で、横のつながりの大切さに力を入れた活動について、さらに検討しているところでございます。

また、北区地域部会では「北の区から」という広報誌を発行しておりますが、これについては、我々のほうでメールアドレスがわかれば送るのでございますけれども、おわかりいただけない方は、ワン・オールさんのホームページにも記載されておりますので、ぜひともご覧いただければと思います。

北区からは以上でございます。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、東区地域部会にお願いします。

○小谷副会長 東区地域部会の小谷です。

東区地域部会の今後の活動については読んでいただければわかると思います。

昨年度の活動について一番大きく変わったところは、東区内の事業所は、子どもや大人の種別を超えて横のつながりを持つとうということで、9月にネットワーク部会が立ち上がりました。

部会運営で工夫していることや困っていることは、毎月、事務局会議と運営会議を開催することにより、密度の濃い検討、意見交換を行っています。

また、もう2年目になりますが、子ども部会の運営に当たっては、校長会代表への説明など学校との連携を図り、昨年の平成30年度からは児童会館の館長を運営委員に加え、顔の見える関係づくりに取り組んでいるところです。

それから、ネットワーク部会を設立しまして、関係機関のネットワークづくりに取り組んでいます。このネットワーク部会は、毎月第4水曜日に何かしらの催しを行っています。この場では、地域の課題を掘り出したり、各事業所で困っていることを集めるなどの取り組みをしています。

困っていることとしては、障がい分野以外の活動の広がりがやはり十分ではありません。特に町内会や地区連合の方などにはなかなか広がらないので、新たに仕掛けや取り組みが必要ということが課題として挙がっています。

防災については、別冊の札幌市防災に関するまとめの13ページが東区地域部会になっています。東区だけ形が違うのですが、もともと9月1日が防災の日ということで、この月は防災について皆さんで話し合おうとしたところ、6日に北海道胆振東部地震が起きました。集まりは予定どおり行ったのですが、その地震が起きた中でいろいろな課題が見えてきて、それをまとめたものをここに挙げています。ですから、東区地域部会だけは形を変えて、課題ということで挙げさせていただいております。中を読んでいただいたら、切実な課題が実際にあるということをおぼえていただけるかと思っております。

東区地域部会は以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、白石区地域部会からお願いします。

○斎藤委員 白石地域部会の斎藤です。

厚いほうの活動報告の8ページが白石の地域部会になっております。書いてあるとおりですが、白石の特徴は、前年度はほぼ毎月専門部会を中心とした研修会をやってきました。白石には、子ども部会と就労部会の二つの専門部会があります。現在、居宅介護部会を準備中ですが、子ども部会と就労部会は、それぞれ活発に研修を行っています。内容はそこに書いてあるとおりです。

今年度は会長もかわって、白紙の状態から何をやるかという議論をしておりますが、そこにも書いてあるとおり、今年度と来年度にかけて、地域部会の会員の明確化をすることが決まっております。

どういうことかといいますと、今までは、地域部会といっても誰が構成員かわからない

中で、研修をやる人は手弁当で一生懸命準備をしてくれるのですが、どこの誰が集まって、どういう成果を持ち帰っているのか全然わからない状況でした。そのため、会員を改めて申し込んでいただいて、またきちんと作り直していきたいと思います。

防災のまとめについては、別冊の14ページが白石になっています。

白石区は余り大したことをやっていないのですが、簡潔に言いますと、事業所のできることと地域のできることと行政のできることの三つに分けて課題を整理してみました。

事業所のできことは、BCPをつくっていただくことと、それに基づく想定訓練を年に何回かやっていただくことに尽きるだろうと思います。

それから、地域のできことは、福祉サービスを受けていない、どこともつながっていないであろうと思われる障がい者とどうつながっていくかということで、その人に対して、誰かが個別支援計画をつくることとしています。その誰かとは誰なのだという話になっています。

3番目の行政のできことは、当然、避難行動要支援者名簿の作成と有効活用としていますが、有効に活用されているとは思われません。また、避難所における合理的配慮がまだまだないのではないかとということで、これをきちんとやっていただくということで課題を整理しました。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、厚別区地域部会からお願いします。

○加藤委員 厚別区地域部会の加藤です。

厚別区は、10ページから11ページにかけて簡単に書いてあります。

厚別区は、もともと高齢者と障がい者が一緒に地域部会を構成してしまっていて、地域包括支援センターの方々も幹事として入っております。

地域課題としては、高齢、障がい問わず、地域共生の社会をどうつくっていくかということが柱のテーマになってしまっていて、いろいろな専門チームがそれぞれで動いていて、お互いの研修会等に情報共有し合うというようなことをずっとやっております。

課題としては、部会に参加する人が固定化してきて、いろいろな方がなかなか参加しづらいところがあります。情報を提供していないということもありましたので、平成30年度はコミットチームということで、若手の方々を中心にチームをつくって、いろいろな意見を出していただき活性化を図ってこうと動いてきました。成果として手応えが感じるところまではいかず、参加は余りありませんでした。

また、当事者でピアチームをつくってもいるのですが、当事者の方々の参加もなかなかないということで、ここが一つ課題になっているところです。

子どもチームは、昨年、清田区さんに子どもチームができて、学習会を協働でやっていくということで実際に動き始めたところです。

平成31年度は、地域共生で、先ほど、白石区さんのほうからもありましたが、福祉サービスになかなかつながりづらく、特に包括さんからどうしたらいいかということでも幹事会で上がってくるのが、親御さんが介護保険を使うことになってそのお宅に訪問すると、10年ひきこもっている方がいらっしゃるということです。この事例はやはり多く散見されます。それから、障がい福祉のサービスになかなかつながりづらい方々、または、どこも使っていないけれども、障がいがあるという方々とどんなふうにつながっていくかという課題が同じようにあります。

令和元年度はもう少し緩やかに、地域のイベントに部会が参加して、障がいの方は来てください、困っている方は来てくださいという枠組みではない中で、話しやすい場所をつくっていったらいいのではないかと考えております。

防災に関しては、別冊の15ページからです。

厚別区地域部会は、事業所交流会を毎年やっています、高齢の介護保険の福祉サービスの方も含めてお声かけをしております。今年参加して下さった方は80名くらいで、いろいろな事業所の方にご参加いただきました。これは、課題別にちゃんとまとめたわけではなく、グループごとに出た意見をテーマに沿って並べただけなので、もう少し課題ごとに整理していきたいと思っております。

実際に何を成果としていくかをまだ絞れていないので、いただいた意見をもとに、地域部会としてどういう成果を出そうかというところを今年度は考えていこうという段階です。以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、豊平区地域部会からお願いいたします。

○中村委員 豊平区の中村です。よろしくお願ひいたします。

豊平区の報告につきましては、12ページから14ページに記載しております。

前年度の活動としましては、毎月の定例会を中心に例年どおりの活動を行っております。その中で、大きな動きとして、13ページの8月ですが、とよひらフェスティバル2018ということで、以前、「とよひら」福祉フォーラムという形で行って行っていましたイベントを昨年はお祭り形式に変更して、フェスティバルという形で行いました。

とよひらフェスティバルは、ふだんの活動がどうしても支援者や関係者の方向きの内容になってしまいますので、年に1回、日常で障がいを持った方にかかわる機会の少ない地域の方々にも理解を深めていきたいということで行っております。おかげさまで、多数の方に会場にお越しいただいて、フェスティバルを開催した意義があったと思っております。

続いて、今年度の令和元年ですけれども、基本的な活動は例年どおりですが、大きな点が二つあります。ただいまお話しいたしましたとよひらフェスティバルの第2回ですが、昨年は8月に行ったのですが、会場の関係で、つい先日の5月18日に開催いたしました。こちらのほうもおかげさまで約500名弱の方にご来場いただき、障がいについて深める機会として成功できたと思っております。

ただ、お祭り形式ですので、来場して下さった方々はお子さんや親子連れの方々が中心で、もしかしたら、ただお祭りに来て楽しんで帰っただけという方もいるのではないかと考えています。ですから、今後は、さらにそこから深めていただく工夫が必要と考えております。

もう一つは、14ページの困っていることのところを書いておりましたが、地域課題については、部会の中でなかなか取り組めない状況が続いております。記載されてありますとおり、1年間を通して、定例会やフェスティバルなどに大体の時間がとられておまして、今まではじっくりと地域課題に向き合う時間がとれていませんでした。

今年度は、定例会等の時間を少し使いながら、地域課題の抽出に少しずつ取り組んでいきたいと思っております。

豊平区からは以上になります。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、清田区地域部会からお願いします。

○栗虫委員 清田区地域部会の栗虫でございます。

清田区地域部会も、部会運営に工夫していることや困ったことにつきましては、前回と余り変わらないのですが、部会会員の参加の拡大を目指す目的でやっております。

今回、運営会議のメンバーの若返りさせるために、副会長2人制とするように規約を変更しまして、若いメンバーを入れた工夫をしました。

また、この若手の会のメンバーから課題を抽出していただくような努力をし、それが利用者の課題へとつなげられるような方法もとっていきたくと思っております。

防災については、里塚の液状化被害があった場所の道路が先日やっと開通したのですが、そこを通過して、改めて全壊、半壊の建物の被害の大きさに心が痛みました。

防災のまとめとして、状況別に役に立ったことや今後につなげることへのアンケート集計をした後、地域包括支援センターから講話をいただきまして、高齢者や障がい分野の連携を図るためのグループワークをして、今後のいろいろな課題の抽出を行いました。

また、札幌市の災害に対する時系列の動きも主査から逐次紹介していただきまして、みんなで振り返りをしました。

以上です。よろしく申し上げます。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、南区地域部会からお願いします。

○山田委員 南区地域部会の山田と申します。よろしくお願いいいたします。

平成30年度の主な活動実績は書いてあるとおりですが、南区地域部会としては、三つの専門部会それぞれに事例検討会や交流会、情報交換会等を実施しています。プラス課題から出てきた「就労支援ってなに？」というプロジェクトチームを立ち上げて、研修会を実施してきました。

令和元年度の活動予定として、大きなところでは、今までは、個別のケースから地域課題

を吸い上げようということで事例検討を重ねてきましたが、地域課題までなかなか抽出できていませんでした。そこで、今回は南区内の事業所さんに広く声をかけて、どんな課題をお持ちですかというお話をじかに聞く機会を1回設けようということで、今検討しているところです。

また、「就労支援ってなに？」プロジェクトが昨年度で活動を終了いたしましたので、今年度もこのようなプロジェクトを継続していくのか、あるいは、形を変えるのかということについて、今後、検討していく予定となっています。

部会運営で工夫していることや困っていることについては、ほかの部会の方からもお話があったように、南区もメンバーが固定化してきて、新しい方がなかなか入ってこないところがあります。

また、それぞれの事業所や関係機関の方の考え方があって、以前に比べると現場の人は参加したいけれども、上の方の理解がなかなか得られずに、参加が難しいという話が最近ちらほら出てきているので、このあたりで南区地域部会として、上の方々たちを説得できるものを何か検討していかなければならないと考えているところです。

防災のまとめについては、南区地域部会では運営委員会と呼んでいます。そこに代表の方々が集まった中で、当日どんな対応をしたか、その中で困ったことや課題はどんなものかということを含んでざっくばらんに出し合ったところです。

一番は、それぞれがそれぞれの取り組みをして、利用者さんを守れたのがよかったところでありましたが、つながりがなかったため、情報共有ができずに、その事業者単体で終わってしまいました。物のやりとりや人のやりとりの点については、もう少し情報共有や情報の伝達の方法が整理されていれば、もっとみんなが困らずに生活できたのではないかと振り返りをしていたところです。

南区地域部会としては以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、西区地域部会からお願いします。

○前田さん 西区地域部会の前田です。

平成30年度の主な活動実績ということで、19ページから21ページ目の資料になりますけれども、まず、これまでやってきた三つのことを挙げております。

平成30年度の中で大きかったところでは、星の上から3番目で、西区地域部会の組織改編というところで、事務局員や構成員を増やしております。また、子ども部会を発足し、2月に交流会を開催して、山の手養護学校の見学等と児童虐待の講演会を行っております。それから、西区相談支援推進会議の見直しをして、ほかの地区の会議にも参加してネットワークづくりを進めていくということで取り組んでおります。

西区もずっとやってきたことが大分積み重なってきて、定番としてやっておりますが、中でも元気の出る交流会を年2回行っております。また、2カ月に1回定例会を行っております。去年でいいますと、9月の震災以降は、定例会の内容を当初の予定から大幅

かえて、さいがい かん にかんすることというテーマに切りかえて行っております。

資料に沿っていきますと、げんき での こうりゆうかい では、がつ ほっかいどういりやうだいがく はせがわじゆんきやうじゆ に来ていただいで、たくほく のあいの里ケア施設町内会の取り組みなどを紹介していただきました。ちいさな なたが じゆう せつきとくで 地域の方が非常に積極的にかかわっている取り組みのお話を聞かせていただいで、ひじょう べんきやう になったと思っております。

それから、たいれいかい では、いぶりとうぶじしん における西区役所の対応についての説明を受けました。また、はちけん ちやうないかい では、みんせい いん さんやいりやうきかん なた とうじしや なた ふく 来ていただきました。

わたし いちばんいんしやう のこ に残っている中に、はつたつしやう がいをおもちで子育てをされている方から、じしんとうじつ ほんとう たいへん じゆうす はなし 地震当日の本当に大変だった様子のお話がありました。そのようなことを知る機会がなかったの、ひじょう にいい きかい だったかと思っております。

今年度、れいわがんねんどう のうんえいよてい はこれまでのけいぞく おこな 行っています。しかし、2か月に1回の定例会、そして、げんき での こうりゆうかい ふく まいつき にしく ちいさな しえんきやうぎかい があまして、かくじぎやうしよ あつまるのが負担ということがひと かだい としてあがっていました。そこで、ことし げんき での こうりゆうかい ふく ぜんたいかい がつ かい 今年、元気の出る交流会も含めて全体会を2か月に1回にして、スリム化を図るといふほうこう かんが 考えております。

ぶかいうんえい で困っていることとしては、しょう 障がい、こうれい いりやう 医療にかかわるたくさんの方々が構成員とされていて、すべ ぶんや こま 全ての分野の細かいところでつながっているのですけれども、にしく 区の自立支援協議会としてぜんたい なに かんが かだい かいけつ 全体で何かを考えて課題を解決していくせつてい がなかなかむずかしいというのが今の課題であります。

ぼうさい しんさいいこう のところでは、ほかの区からも出ていましたけれども、よこ 横のつながりということがあります。にしく 西区もいろいろな事業所が増えていまして、わたし はっさむ 私は発寒ですけれども、にじゅうよんけん じぎやうしよ 二十四軒の事業所はよくわからないのです。ですから、今年度は原点を振り返って、よこ 横のつながりといいますか、そこのかた のホットラインをつなげられるような取り組みをしていきたいと思っております。

あとはぼうさい かん に関するほうこくしよ 報告書です。

にしく ひやう なか 西区は表の中にまとまっているだけで、いろいろなげんじやう やそのときにうかんだ課題などがぱつと書かれていまして、じしん がまとめて何かを言えるかという、なかなかおもう浮かばないのですが、これはすごい宝の山だと思っております。わたし じぎやうしよ 私の事業所では、ぼうさいたいさく 防災対策のじぎやうしよ マニュアルの中にいっしょにとじているのですが、たからばこ なか 宝箱の中にしまったくらいのおもひ がありまして、いま たから ひさ 今宝を久しぶりに見たようなかんが があります。

うまきは言えないのですが、ひとつひとつをよんでいくと、それぞれの課題について取り組みでいかなかったということがわかるので、今後の取り組みの中に改めて生かしていかなければならないと思っております。そして、どこかの時点でやはりもういっかい ひ だ にしく じぎやうしよ 西区の事業所の中でまた共有していきたいと思っております。

にしく 区からはいじやう 以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、手稲区地域部会からお願いいたします。

○橋本委員 手稲区地域部会の橋本です。よろしくお願いします。

手稲区地域部会の資料は22ページと23ページとなっております。

まず、平成30年度の活動実績については、発足当初から支援者同士の顔の見えるネットワークづくりということで目標を置いて、いろいろな取り組みをしてきましたのですが、当初は活動に参加してくれる方々は余りいらっしやなくて、活動に停滞を招いていました。

しかし、昨年あたりから、子どもグループ、まち課題グループ、就労グループということで、ある程度テーマを絞ったグループをつくったことと、活動を絞り込んだところ、参加していただける方々が少しづつ増えてきて、今は少し充実してきているところです。

平成30年度の活動実績について、細かい活動内容については書かれているとおりですが、大きなところで少し変わってきたのは、イベント中心の販売活動から、商業施設で連携をとりながら定期的に販売活動ができるようになってきたところだと思えます。

部会運営で工夫していることとしては、先ほども言いましたけれども、キーとなる活動の販売会が定期的な活動に変わってきたということで、呼びかけをしたところ、自社製品をつくっている19事業所の方に興味を示していただきました。毎回同じところが参加できないので、ローテーションを組んで参加していただいているところが増えてきております。

また、今年は区内に4校ある高等支援学校にも呼びかけをして、一緒に販売活動をさせていただくことで広がりをみせられるかと思っております。

最後に、手稲区地域部会では、ネットワークを広げていくために、さまざまな機関や団体からの協力要請にはできる限り積極的に取り組むようにしているところです。

これは、昨年からお話はあったのですが、区内にある大学の学生の活動の一環として、キャリアアップにつながるような活動が何かできないだろうかというご相談がありまして、今、手稲区地域部会と一緒に活動することで大学側と協議を進めていこうとしています。

令和元年度については、商業施設での販売が1カ所増えていきますので、それも含めてやっていければと思っております。

防災については、別冊の56ページからですが、3月に、手稲区民センターに約50名に集まっていただいて、講師に星置弘星町内会の厚生福祉部長に来ていただきました。今回の9月6日の震災のときにどういう動きをしたかということから収束までの間の流れをお話しいただいて、地域とどういうふうにつながっていけるかということを探した会になりました。

第2部は、グループワークを行いまして、震災のときにそれぞれの事業所で実際にどんなことをやるのか、それぞれの事業所でやれてほしいところや悪いところを共有しました。また、手稲区地域部会として、何かこういう取り組みがあったらいいのではないかと

いう意見が出てきていました。

今後、その辺を地域部会の中で精査して、取り組んでいけるものについては取り組んでいければと思っています。それとともに、地域部会からの取り組みということではないのですが、手稲区民生委員児童委員連絡協議会の中から、今回の震災のときに、自主的に要避難援護者支援のために自宅訪問を行っていただいたようなのですけれども、実際に自分たちがやったことがこれでよかったのかという不安の声などがあったということです。

実際に障がいのある当事者の方がどんなふうに過ごされて、どういうことで困っていたのかということが知りたいというお話が地域部会に打診がありました。そこで、今回、地域部会では、知的と精神の方、身体の方の3障がいの当事者の方にご協力いただいて、自分たちの声でお話をしていただいたり、支援者の方が補足してお話することで理解を深めていただくというような会を持たせていただきました。

民生委員の方のアンケートの中にも当事者の方についてよくわかるような会だったとか、こういう活動をもう少し多くやっていただければいいというようなご意見等もあったということで、よかったと思っています。また、地域の中で活動されている方に理解していただくことは大事なことでとも思いました。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

10区の報告が終わりましたので、続きまして、地域部会連絡会からお願いいたします。

○中村委員 地域部会連絡会です。

豊平区の中村です。

地域部会連絡会のご報告をいたします。

地域部会連絡会は、ただいま報告がありした10区の地域部会の情報交換や意見交換の場として、年間で不定期ではありますが、約2カ月に1回開催しております。

活動実績などは、24ページに記載されておりですが、平成30年度の活動としましては、主にホームページの運用ということで、地域部会の活動の発信のツールとなりますホームページの取りまとめをいたしました。

あとは、大きなところとして、ただいま各部会からも報告がありました防災についての取り組み状況ということで、各地域部会で茶話会や定例会などを通して、「別冊：防災に関するまとめ」のとおり、いろいろなものを吸い上げて、こちらにまとめました。

一つ一つの部会の中で、大きく見ると、困り事とか、こういった対応ができたということなど、いろいろな面にて似ている部分もあるのですが、地域も違いますし、その環境も違ったり、サービスも違ったり、いろいろなところでそれぞれ違った色や面がたくさん浮き出ているところでは。

一つ一つは各地域部会で解決できたり、今後に生かしていくところだったりと思うのですが、地域部会連絡会として10区の中で共有して、今年度、この報告についてどういった形でまとめていったり、今後どのように生かしていくのかというのが令和元年の主

な活動の中身になってくるとおもいます。

札幌市内10区ということは札幌市全体の部分になりますので、地域部会の報告という雰囲気はありますが、実際のところ、札幌市全体の報告ではないかという話も部会で行っていました。またいつ起きるかわからない地震に向かって、定期的に、できるだけ早目にいろいろな取りまとめなどを行っていきたくと思っております。

以上となります。

○永井会長 ありがとうございます。

各区それぞれに充実した取り組みをしていただき、本当にありがとうございます。

また、今、地域部会連絡会からご報告がありまして、防災についての報告書は札幌市としての報告書であると思っておりますので、今後、さまざまな活用ができればと考えています。ありがとうございます。

続きまして、専門部会から、まず、就労支援推進部会にお願いいたします。

○重泉委員 就労支援推進部会の代表の重泉です。よろしくお願ひします。

就労支援推進部会の平成30年度実績は記載しているとおりで、平成31年度の活動予定も記載しているとおりです。

工夫していることや困っていることですが、工夫していることとしては、就労支援推進部会の構成員と事業所の数は、就労系はA型、B型、移行を含めると500近くになるので、非常に多いのです。その中の構成員は半分もいかないのですが、その方たちの意見を全部聞くのは大変です。そこで、ハローワーク管轄というのがあるのですが、その管轄ごとに情報交換会をして、意見が出やすいような工夫をしています。

それから、札幌市にはB型事業所が非常に増えてきて、今は350くらいになります。

B型事業所もさまざまな特性があると思ひますが、昔から言う授産施設でいうとデイケア型とそこで仕事をするというところで、カラーが分かれていました。そこで、今、B型にはどんな特徴があるのか、どういったところで困っているのかということも含めて調査をする予定です。

もう一つは、大きなところで言うと、札幌市の障がい者雇用の事例集があったのですが、そのほとんどの当事者の方は身体障がいの方だったのです。そこで、昨年度、知的障がいと発達障がいの方、中には名前を出したくない方もいますので、ペンネームですが、雇用事例集を札幌市のホームページにアップしています。本人が自分でメッセージを書いたり、写真を出しているのですが、そういったところも一つ工夫しているところかと思ひます。

防災に関しては、震災時の事業所の状況確認を各地域部会でやっております。また、それぞれの登録者の方たちにメールで送信して被害状況の確認などを行いました。

それから、これは地域部会の中でも多分出ていたと思ひますし、今後の議論にもなっていくと思ひますので、ご本人さんもそうですが、事業所が地震の影響で立ち退きをするということがありました。それを誰が補償するのかというのは、やはり自己責任で事業所

の責任になり、全部自前でやらなければいけないのです。ですから、今後は、そういったところの手当についても少し考えていかなければいけないのかと思います。

自然災害で、どこまでが自己負担になるのかは非常に難しいところですが、福祉の公的な機関なので、全てが全て自前でいいのかというところは少し協議が必要かと感じています。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、相談支援部会からお願いいたします。

○荒川委員 相談支援部会の荒川です。

先ほど報告させていただいたことに追加はありません。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、子ども部会からお願いいたします。

○金澤さん（北川委員代理） 子ども部会の北川部会長が欠席ですので、事務局を担当している金澤からお話をします。

平成31年度の活動予定について、中間あたりに不登校やひきこもり等の困難を抱える若者への支援と課題について検討と書いています。これまで子ども部会では、母子保健等を含めた乳幼児期の子どもへの支援、放課後デイサービスの参観日などの取り組みをしてきました。また、学齢期の子どもさんたち、また、思春期を迎えている障がいを持った子どもたちの支援という形で研修会等も行ってきました。

今年度は、まだ日が当たっていない、子ども部会の対象になる方たち、例えば、不登校や、特に青年期を迎えると就労とのかかわりが出てくると思いますが、そういう方たちの生活の実態を含めて、どのような支援が必要なのか、また、課題は何かというところを取り組んでいこうと考えています。

それから、各区に子ども部会がありまして、名称の違いはあると思いますが、活動の場が広がってきていると思います。

今日も中央区の事務局内に新しく窓口を開くということで、子ども部会の地域ごとの活動をさらに進めるためのバックアップを子ども部会全体で行っていこうと捉えております。

部会運営の工夫ですが、子ども部会では、各運営委員の構成は、当事者である子どもさんの保護者という形になります。ですから、幼児期の子どもさんの保護者の方や学齢期ですと放課後等デイサービスを使っている子どもたちの親御さんが代表で入っています。また、子ども育成会からも親御さんが参加いただくなど、当事者の意見も入れながら部会の運営を進めて行っています。

それから、昨年度から、部会内でいろいろなテーマに沿って学習や意見交換を行う取り組みも行っていて、これはこちらの特徴になるかと思っています。

課題としましては、子どもさんにかかわるところですが、私たちは障がい福祉課との連携もとりながら、福祉のほうでも取り組んでいるのですけれども、子ども未来局や児童相談所の管轄の部分など、いろいろなところのかかわりが多いと思います。そういう意味で、会議や活動が重複するところがあるので、その整理が必要と考えています。

そこで、今年度は、この辺の取り組みを行っていこうと捉えています。

防災に関するまとめについては、昨年度の胆振東部地震における子ども部会の対応をまとめしております。

具体的対応としては、各機関に情報の提供を要請し、被害状況の把握や情報の収集に努めたところです。

また、先ほどもお話しいたしましたが、子ども部会は、基本的には子どもさんにかかわる各機関と行政についても福祉だけではなく、教育とも当然かかわっており、役割分担をどのようにするかというところが課題としてあります。そこで、自立支援協議会における災害時対応の指針がやはりあるべきということで、その役割や支援範囲の内容について、他の機関とどのようにかかわっていくかということをご提案しています。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

3 専門部会からの報告が終わりましたので、専門部会連絡会からお願いたします。

○重泉委員 専門部会連絡会の重泉から報告させていただきます。

3 専門部会は、2 月に 1 回、偶数月に行いました。昨年度は、プロジェクト化されていない課題の整理を中心に行って、今年度は、先ほど部会の方もおっしゃっていたように、子どもから成人期までの連携を中心に、3 専門部会で協議をしていく予定になっています。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

各専門部会には、それぞれ専門の立場で、対象となる事業者のスキルアップと全体的な取り組みしていただいて、どうもありがとうございます。また、連絡会のほうでは、プロジェクト化されていない課題の整理など、運営会議で積み残しているものについてもご検討いただいております。

以上で、各地域部会と連絡会、専門部会からのご報告が終わりました。

全体を通して、ご意見、ご質問等がありましたらぜひお願いいたします。

○荒川委員 相談支援部会の荒川です。

先ほど、白石区地域部会さんから避難名簿の有効活用がされていないというお話があったと思うのですが、その辺を詳しく教えていただきたいと思います。

○斎藤委員 白石では、各事業所で、災害後、どういふうに動いたのかということやどういふうがあったらいいのかという話し合いを 2 回くらいしたのですが、そのときに社協さんから出た課題だと思っております。

札幌市には名簿がありまして、それを各町内会に提供して有効活用をしませんかとお聞

きしても、手を挙げる町内会が非常に少ないのです。ですから、支援が必要な障がい者を札幌市が把握して名簿までつくっているのに、それを実際に災害があったときにどういうふうに使役して使うのかという部分が、まだ整備されていないのではないかというようなお話がありました。

○荒川委員 ありがとうございます。

○永井会長 ありがとうございます。

ほかにございますか。

○鈴木委員 障がい者によるまちづくりサポーターの代表をさせていただきます鈴木と申します。よろしくおねがいいたします。

私たちの会議は、役員の変更になってからまだ3回しか開催できていないので、意見を取りまとめるのはなかなか大変なことと思います。

でも、今も意見がありました、私どもで一番最近出ている意見として、9月に地震があつて何カ月もたっているけれども、実際に災害があったときに、福祉避難所の情報をどんなふうに入れていくのかとか、そこへ行くまでの手順など、何もわかっていないということがあります。半年以上たっているのに、自分たちには何も届いてこないということです。

皆さんが一生懸命いろいろなことをやってくさっているけれども、障がいの当事者の私たちには何も入ってこないが、これは何なのかとみんなは困る感じになってしまうのです。

私たちの今年の活動のテーマは、障がいの種類やこういうときに困るのだということ、まずは知ってもらおうということです。こんなふうに助けてもらったらありがたいし、避難所では、この障がいにこういうサポートが要るのだということを、意見として具体的にまとめて、それぞれのところで発表していきましょうということになっています。

今年の会議の1回目は6月にあるので、数人ずつで話をして、意見をまとめていって、今年いっぱいまでにその意見を取りまとめて、事務局と相談しながらいろいろな方向に話を広げていきたいとおもっております。

それから、出前講座の依頼が事務局にあったときに、私たちが同行して、各町内会や学校などでお話をさせてもらうのも一つだという意見もありました。

今、一番抱えている問題としては待ったなしの災害の中で、また同じようなことがあつたらどうすればいいのかということです。災害時に、こういうことでこうだという手順を確実にわかっているのが誰ひとりいなかったというのが現状です。ですから、情報が届くような形で皆さんにまとめていただいて、それを私が会議のときに意見としておろしていけたらいいとおもっております。よろしくおねがいいたします。

○永井会長 情報提供とご意見をありがとうございます。

本当に待ったなしということで、次はいつくるかわからないということがありますので、周知も含めて早目に成果を何か出していきたいとおもいます。ありがとうございます。

ほかにありますか。

○村山委員 札幌市東区第2地域包括支援センターの村山でございます。

高齢者分野の立場で参加しておりますが、私のネットワークの中で参考になる事例がありますので、ご紹介したいと思います。

東北の震災の後に、大規模災害時にリハビリテーションを提供する推進協議会というものができています。JRATといいまして、今、日本医師会の傘下で動いている組織になっています。

熊本災害や今回の胆振災害においても、派遣をしてリハビリテーションの支援をしているところなのですが、その下部組織にDORAT、北海道災害リハビリテーション推進協議会というのがございます。

今回の胆振の災害のときに一番初めに行ったことは、避難所の環境整備です。

障がいを持った方や高齢者の方々が福祉避難所ではなくて、通常の避難所や福祉避難所もですが、その環境、トイレやベッド、浴槽、入り口などにリハビリ専門職が入って、環境整備をする事業を行っておりました。

その後に、環境整備ができれば、今度は個別のリハビリアセスメントを行って、廃用性やエコノミー症候群を防止する事業を展開していったことがございます。

今回の災害で、札幌はそこまではいきませんでしたけれども、将来的に大規模な災害が起きたときに、そういった社会資源を札幌としても活用できればと思いましたので、今回、情報提供をさせていただきました。自立支援協議会の中で災害支援の計画を立てる際にこういったものも活用できるということで、ご参考いただければと思います。

○永井会長 こちらからも情報提供をありがとうございます。

各所でお持ちの情報がばらばらにならず、何らかの形で集約できて、よい形になっていけばいいかと思えます。

今の件も含めて地域のほうでご意見をお持ちの方とか、今の発言を受けての補足とか、回答として何かあるという方はいらっしゃいますか。

(「なし」と発言する者あり)

○永井会長 では、いただいた情報は本当に大切にいたします。別途、何か協力をお願いするようなことがあるかもしれませんが、今後もしよろしくお願ひいたします。

ほかにありますか。

(「なし」と発言する者あり)

○永井会長 それでは、もし後で何かありましたらご発言いただくことといたします。

続きまして、運営会議と各プロジェクトチームの活動報告に移りたいと思えます。

お気づきのように、今回は報告書の書式が大幅に変わっておりますので、変更点を少し説明したいと思います。

まず、各プロジェクトの報告書の様式ですけれども、例えば、40ページをご覧いただけますか。

これは、前回の全体会でのご意見を踏まえて、課題とプロジェクトの取り組みとの運動が明確になるように、課題の概要という項目と課題解決に向けた方向性を入れるようにして、各プロジェクトチームの報告の後についておりますそれぞれの課題に振られている番号を課題ナンバーの欄に入れております。

改めて、各プロジェクトと各課題を意識して、自分たちのプロジェクトの方向性を再確認したということになっておりますので、そのような意味で、皆様には課題解決のためにプロジェクトチームが組まれているということをご確認いただけたらと思います。

ただし、プロジェクト活動を行う過程で、新たな課題に取り組んだり、新たに気がついたことがあるという理由によって、必ずしも課題整理状況で番号の振られている課題とうまく合致できずにプロジェクトのテーマの記入ができなかった場合は、空欄になっているところがありますので、この点もご承知おきください。

続きまして、課題整理状況シートも改定しております。こちらは報告書の50ページを見てください。

課題4と15について書かれておりますけれども、各プロジェクトチームで取り組んだ課題や法改正によってある程度改善が見られた課題については、米印をつけて「一定の改善が見られたため、一旦取り組み終了」という記載を付しております。

その上で、またページが飛びますけれども、223ページをご覧ください。

このページ以降は、これまでに出版されている課題の一覧となっているのですが、ここでは、一旦取り組み終了の課題を網かけとなっております。今、取り組むべき課題とある程度取り組んで改善が見られた課題を把握しやすいようにということで、果てしなく数が増えていかなないように確認する意図で整理をしております。

ページを戻って、報告書の35ページをご覧ください。

35ページには、平成25年度から平成30年度までに挙げた課題の数の整理ということで表が描かれております。これまでに107の課題が挙げており、そのうち、今ご紹介したような一旦取り組みを行って一定の改善が見られたために取り組み終了となっているものが45件となっております。

それ以外の課題について、各プロジェクトを中心に取り組みを進めていることと、現在、まだ整理中の課題も5件あるという状況になっていて、各地域部会から出された課題についてきちんと整理して、取り組みを進めているということをご報告したいと思います。

プロジェクトチームがまさに課題の取り組みの場ということになっておりますので、この後、各プロジェクトチームにご報告をいただきますが、その前に、自立支援協議会で月に1回協議をしております運営会議の活動報告を行いたいと思います。

33ページをご覧ください。

まさしく地域部会から出された課題を整理して、プロジェクトチーム等に振り分けるところが主な運営会議の役割となっておりますが、そのほかに、札幌市自立支援協議会の運営にかかわる体制整備に関して検討を行っております。

活動実績としましては、33ページに書かれておりますように、プロジェクトチームの発足、あり方等について、特に設置の際の手の整理等を改めて行っております。

さらに、後から協議していただきますけれども、移動に関するプロジェクトチームの発足を視野に、移動に関する課題が数多く挙がっているのですが、その検討体制を見直すワーキングチームを設置して、プロジェクトチームの設置までの整備を行っております。

それから、今申しましたとおり、一定程度取り組みが終わっている課題についての記し方などを整理したこと、あるいはプロジェクトチームの活動との課題の運動を明確化するという課題整理のあり方について検討を行ったことが、平成30年度の運営会議の主な実績でした。

34ページに、今年度の活動予定について書いておりますので、そちらをご覧くださいればと思います。主にさっぽろ障がい者プラン2018の進捗確認や先ほど来話題に上がっています防災に関する取り組みのまとめについて、何らかの取り扱いを検討していきたいと思っております。

運営会議については以上です。

それでは、各プロジェクトチームの報告に移ります。

36ページをご覧ください。

まず、研修（人材育成）プロジェクトチームからお願いいたします。

○重泉委員 研修プロジェクトチームの重泉です。

活動報告としては、研修のレベル1を12月に行いました。研修自体は9月に予定されていたのですが、ちょうど研修の前の日に地震がありまして会場が使えなくなったということで、急遽中止になり、12月に行いました。

今年度に関してはレベル2をやる予定なのですが、この研修プロジェクトは毎回ご報告させていただいているように、3年をめどに解散するということで、レベル1とレベル2が形づくられたので、専門部会に引き継いで、そこで今後の研修等の内容を企画する予定になっております。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、39ページをご覧ください。

ヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチームについて、小谷委員からご報告をお願いいたします。

○小谷副会長 ヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチームの担当委員をしている小谷です。

ヘルパー技術向上に関するプロジェクトチームは、主に管理者やヘルパー等に向けて行う座談会等を行ってきました。

上半期には、「ヘルパーの魅力と共有する座談会」として、ヘルパーが実際に困っているという声や魅力と思える積極的な働き方を知るための方向性を探るための座談会等を

開催いたしました。

今、それらの座談会が終わりまして、まさにヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチームが始まりました。プロジェクトチームは有期限ですので、来年の9月をめぐりに区切りをつける方向で今動いていますが、行っているうちに、ヘルパーの技術向上というよりも、ヘルパーの定着やヘルパーの人材確保という課題に、今だんだんと移りつつあります。今後、それらに対してどのような方向に持っていこうかということが、令和元年度の活動になるとおもいます。

課題に向けた方向性などが記載されておりますので、時間のあるときに、課題ナンバーと私が報告したことをみていただければと思います。今後の活動については、さらに具体的に検討していけたらと思っております。

ただ、人材不足や定着などについては大きな課題ですので、プロジェクトチームだけで終わることができないということで前回の運営会議にも挙げさせていただいたのですが、皆様からのご協力をいただきながら、来年の9月に向けて、このプロジェクトチームをどのような方向に持っていけるか、具体的に検討していきたいと今考えています。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、61ページをご覧ください。

住まいに関するプロジェクトチームの妻倉委員からご報告をお願いいたします。

○妻倉委員 住まいに関するプロジェクトチームの報告をさせていただく妻倉です。よろしくをお願いいたします。

61ページ、62ページ、63ページが住まいに関するプロジェクトの報告等になっておりまして、平成31年度の重点項目、それから、活動概要、令和元年度の活動予定等が載っております。

平成30年度の活動実績の主なものですが、大体、2カ月に1回会議をしております、その中で情報収集や課題整理に向けた取り組みを行っています。特に課題整理に向けた取り組みでは、大家さんに対する障がい理解の促進のため、大家さんとのつながりをつくるということで、大家さんとの意見交換会を中央区、厚別区、豊平区の3カ所で実施しました。積極的な意見交換ができたということで、新年度の令和元年度はほかの区でもやってみたいと思っております。

そのほかに、「一人暮らしガイドブック」の周知・啓発活動といたしまして、札幌市自立支援協議会のホームページに掲載させていただきました。以前も情報は提供させていただきましたが、より使いやすくして、自立支援協議会のホームページに行くと、ガイドブックがすぐに見られるようになっていたので、皆さんに見ていただければと思います。

また、この「一人暮らしガイドブック」は、本州のいろいろなところからいい冊子ですねということでお聞きしております。今年度は、「一人暮らしガイドブック」の活用のための周知活動のアイテムとして、チラシ等をつくりたいと思っております。

そのほかに、プロジェクトの活動期限とそれまでの目標ということで、62ページの一番下に書かせていただきました。

新制度や居住支援協議会が動き出すと解決される課題や解決の方向性が見えてくる課題があると思われますが、引き続き課題の整理や課題解決に向けた取り組みを行い、今年度の平成31年度末（令和元年度）をもって活動期限としたいと思っております。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、79ページを開いてください。

重複障がいに関するプロジェクトチームからご報告をお願いいたします。

○小谷副会長 重複障がいに関するプロジェクトチームの担当委員をしています小谷です。

重複障がいに関するプロジェクトチームは、結構長い間活動をしているのですが、昨年度、継続を承認されて、今年度の9月末で終える動きでいます。

重複障がい児に関しては、専門部会に子ども部会がありますし、各地域部会にも子ども部会等ができ上がってきているので、そちらのほうに引き継ぐことができると考えておりますが、重複障がい者である18歳以上の方に関する引き継ぎ場所を考えると、まだ課題が残っているのが実態です。それらを踏まえて、今現在は、重複障がい者にかかわる協議会などの創設等について、よい提案ができるように検討している最中です。

今年度は、プロジェクトチームが9月で終わりますが、活動実績報告書を作成するとともに、重複障がい者の継続協議ができる場の創設等を提案する内容について検討を進めていきたいと思っております。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、93ページをご覧ください。

身体障がい・知的障がい地域移行推進プロジェクトチームの渡邊委員からお願いいたします。

○渡邊委員 今ご紹介がありました身体障がい・知的障がい地域移行推進プロジェクトチームの委員の渡邊と申します。

平成30年度に活動で行ったことは、こちらにも書いておりますが、主に顔合わせと札幌市版の地域生活支援拠点事業のイメージを皆さんでつくっていきました。その中で、札幌市で何ができるかということをもとに、8月の第2回目会議で皆さんにアンケートを実施した結果を把握して、このプロジェクトチームで何ができるか考えてみました。

今のところ、平成31年度の目標に対して、人材不足があり、現状では緊急時の受け入れがはなかなか難しいということで、どうすれば人材確保や人材育成につなげていけるかということ、今年度改めて話し合っていると思っております。そして、平成32年度にこのプロジェクトが終わるころには、地域支援拠点事業を行えるように活動している最中

です。

私からの報告は以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

以上が現在活動しているプロジェクトチームからの報告になります。

各プロジェクトチーム全体を通して、ご意見やご質問はありませんか。

○加藤委員 今お話をいただいた身体障がい者・知的障がい者の地域移行推進プロジェクトチームですけれども、緊急時受け入れ対応の課題があるということです。地域移行というのは入所施設及び病院等から移行してくることだと思いますが、その地域移行の課題が緊急時というのはどういうところなのか、教えていただければと思います。

○渡邊委員 例えば、知的障がいの方などが今回の地震のようなときに、パニックを起こしたときに、どこにどういうふうに電話連絡をすればいいのかとか、福祉サービスとつながっていない方がパニックを起こしたときにどうすればいいのかというときの緊急時の受け入れが必要ではないかという話になりました。

○加藤委員 ということは、地域移行そのものよりも、知的障がいとか、身体障がいの方が既に地域移行されてからの課題ということですか。

○渡邊委員 それも含まれています。

○加藤委員 そうなると、もしかしたら地域移行推進プロジェクトという名前とこの課題にずれがあるのではないかと思います。既に地域に移行されている方の地域生活に関する課題だったら、こことはまた絞りが違うのではないかと思います。お聞きしていたのですが、その辺はいかがでしょうか。

○永井会長 プロジェクトが発足した経緯とも関係すると思いますので、私から説明をさせていただきます。

当初、課題の概要のところにも書かれておりましたように、精神障がいのある方の地域移行に関するプロジェクトが立ち上がっていたのですが、身体、知的のある方についても同様に検討する必要があるのではないかとことを運営会議の中で検討して、このプロジェクトの準備を進めていました。

先ほど、渡邊委員からのご報告にもありましたが、札幌市で、地域生活支援拠点の整備をしなくてはならないということを、急を要する課題として、自立支援協議会にご相談をいただいております。

そこで、ちょうどよく、特に重い知的障がいや身体障がいを持たれている方で、例えば、親御さんが亡くなって急にひとり暮らしをされることになって、入所施設を出て生活が安定しない方なども視野に入れて生活拠点の整備を考えることは、遠い目で見ると地域移行を推進することになるのではないかとということになりました。

そこで、まずは、こちらのプロジェクトチームに、地域生活支援拠点の検討をお願いした経緯がありました。

そんなわけで、ご指摘のとおり、地域移行推進ということで、入所施設に働きかけると

ところが若干ダイレクトに見えにくい取り組みになっていると思います。けれども、実際には入所施設と地域との連携を考へて、地域で重い障がいがあっても継続して暮らせるような拠点づくりを検討しているのので、課題としては渡邊委員がおっしゃったとおり、地域移行も視野に含んでいるということになっています。

渡邊委員、それでよろしいでしょうか。

○渡邊委員 はい、ありがとうございます。

○永井会長 加藤委員、いかがですか。

○加藤委員 わかりました。

○永井会長 名前がということですね。

○加藤委員 経緯はわかりました。

○永井会長 なるべく自立支援協議会として、市の政策的なところにも意見を言えたらということがあったものですから、優先的な課題として取り組んだということです。

荒川委員、お願いします。

○荒川委員 相談支援部会の荒川です。

今のお話の続きをさせていただきたいのですが、そうしますと、地域生活推進プロジェクトみたいな感じですね。名称はどうでもいいのですけれども、いずれは地域移行について議論を進めていくということですね。

○渡邊委員 それは、もちろんそうするつもりです。

○荒川委員 わかりました。ありがとうございます。

○永井会長 ありがとうございます。

精神のほうもそうだったのですが、地域移行は大きな課題で取り組みもなかなか難しいのですけれども、活動期限が令和2年度末までということになっていますので、視野に入れてプロジェクトとしてはかかわっているということです。

ほかにご質問ありますか。

(「なし」と発言する者あり)

○永井会長 気づいてみたら、プロジェクトの数が意外に少なくなっているとおもったりもしましたが、有期で活動することを決めてやっておりますので、課題について一定程度の回答が出た場合にプロジェクトを終了することになります。

先ほど重複障がいなどもありましたけれども、継続が必要と思われるものについては、課題を再設定して発展的に組み直すことなどを運営会議で検討していきたいと思っております。

それでは、今ご報告いただいた内容を決定事項といたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○永井会長 ありがとうございます。

それでは、年度の報告として、こちらを決定事項といたします。

引き続きまして、新たに立ち上がるプロジェクトチームについての検討をお願いしたいと思っております。

103ページをご覧ください。

こちらにつきましては、担当委員が私となっておりますので、私から報告をさせていただきます。

運営会議の活動報告でもお話ししましたように、かねてより、各区から課題として障がいのある方の移動に関する課題が数多く挙がっているながら、取り組みとしては、いろいろ模索しつつ、回答が出ないという状況が運営会議の中で続いておりました。

模索としましては、例えば、相談支援事業所にアンケートを行ったり、課題の整理を試みたのですが、具体的に何をすれば移動に関する取り組みが解決できるのかということが明らかになってきませんでした。そのため、昨年度の運営会議において、「移動課題ワーキンググループ」を立ち上げまして、私と小谷委員、渡邊委員で、どのようなあり方をすれば移動課題についての検討が進むかということについて、まさしく検討してきたということです。

結果としまして、思い切ってプロジェクトチームを立ち上げるということを運営会議で提案をさせていただきました。ただし、大きな課題ですので、課題を限定して、有期限で成果の出るような形で取り組みたいということになりました。そこで、103ページの活動実績のところに書かれていますように、令和2年9月末までのプロジェクトで具体的な成果を出したいということで、ご提案をさせていただきました。

提案内容につきましては、主に104ページになりますけれども、理解している課題の概要のところをご覧ください。

平成28年度からは、移動支援事業において全身性障がいの対象要件を拡大したということがありまして、徐々に制度の見直しが図られてきていますけれども、ご存じのとおり、依然として通所のための移動支援の仕組みがないとか移動支援にかかわる報酬の算定の仕方などについても実情に即していないことなどがあります。その結果として、サービスが不足している現状が解消されていない状況があります。

とはいうものの、国等が設定をしております既存の制度の見直しを障がい者自立支援協議会で行うということに限界があることもわかっております。そのため、その制度に頼ることばかりではなくて、まちづくりの観点からも幅広く、障がい福祉分野以外からの事業者や個人や民間企業などの参画も図って、全市的に移動に関して取り組んでいく体制が必要ということが運営会議の中で議論されておりました。ただし、これについてもいまだできていない状況です。

そこで、この点について、一定程度方向性を出すことができるようなプロジェクトの活動をしていきたいと思っております。

では、具体的にどのような活動をするかということですが、103ページの下をご覧ください。札幌市の各所でなされてきた移動にかかわる議論を整理し、アンケートを

作成したいと思ひます。この過程では、まちづくりサポーターの皆さんが集約してきた議論なども参考にしながらアンケートを作成したいと思ひています。このアンケートの実施を行い、結果の集約をした後、関係各所にヒアリングを行うような形をとって、課題の集約と具体化を行っていきたく思ひています。

その結果として、プロジェクトの活動期限とそれまでの目標につきましては、104ページの下にありますように、令和2年9月末までの活動として、これまでなされてきた議論の集約が大きな課題です。そして、その議論の集約のツールとして、課題整理のためのアンケート調査を改めて実施することにしたいと思ひています。それに基づき課題の現状を見える化し、関係各所が共有して議論をできるような土壌づくりをしたいというのがこのプロジェクトの意図です。

そして、令和2年3月までに、次期さっぽろ障がい者プランに具体的な提案をして、移動にかかわって行うことを目標としたいと思ひています。

移動に関するプロジェクトの立ち上げの経緯と目的について、簡単ですが、以上になります。

この点についてご質問、ご意見はありますか。

○斎藤委員 非常に重要な課題だと思うのですが、その割にはプロジェクトの期間がすごく短いような気がします。来年の9月末まで最終的に課題を整理して、その中間の3月には、さっぽろ障がい者プランに盛り込むように文章を整理するという計画なのでね。

○永井会長 はい。

○斎藤委員 余りにも急ピッチなのですが、それは何か理由があるのですか。

○永井会長 理由があるというところでは、膨大な課題なので、具体的な期限と目標がない限り、漠然としたプロジェクトになってしまうということが運営会議の中での懸念としてありました。そこで、まず、方向性を示す活動からという意図で、ワーキンググループに参加した私や小谷さん、渡邊さんで始めてみることにしました。

言ってみれば、長らく手をこまねいた課題であったものですから、取り組んでみなければいけないということもあり、運営会議の中で明確に合意を得やすいところがありまして、さっぽろ障がい者プランへの提案が一つ大きかったということがあります。

あわせて、内部事情ですけれども、私たちの任期がもう平成32年9月末までということもありまして、私たちは、会長、副会長をさせていただいておりますが、何らかの形で移動に関しての着手を一旦して終わりたいということがありました。

補足はありますでしょうか。

○小谷副会長 ありません。

○斎藤委員 よくわかりました。

○永井会長 内部事情的なことがありました。

○斎藤委員 お二人の任期があるからだという事はよくわかりました。

ただ、この課題を放置していたという表現はふさわしくないと思います。これは昔からたくさんの方がおかしいのではないかと saying いた課題だと思おうのですけれども、声を上げてどうしようもないということがあったのですが、制度だからしょうがないということで諦めということになっていたと思います。

これについては、やはり大きな声を上げていかなければいけないと思いますし、もし任期の期間にまともならなければ、次の方に引き継いでもいいのではないかと thinking のです。

○永井会長 本当ありがとうございます。「放置」というのは本当に不適切で、自立支援協議会でも放置はしてなくて、まちづくりサポーターが取り組んでくださったり、運営会議でも取り組んでおりました。

斎藤委員がご指摘くださったとおり、課題が本当に大き過ぎて、具体的な成果につながりにくかったことは確かなことだと思っております。ですから、これまでなされてきたもの見える化にしたのは、やってきていないわけではないというところを強調したことがあります。

私たちの任期の事情でというのは、確かにおかしいといえればおかしいので、その後引き継ぐことができるのであれば、プロジェクトの中で検討していけたらと思います。

小谷副会長、渡邊委員、何か補足はありますか。

○小谷副会長 ありません。

○渡邊委員 ありません。

○永井会長 今回の趣旨の内容をプロジェクトのメンバーにもお声をかけていただいておまして、105ページにその方々のお名前を挙げております。4月に一度準備会を行って、今の方向性について共有している状況です。

このプロジェクトの立ち上げにつきまして、ご承認いただけますでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○永井会長 ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、年間活動報告書の全内容について決定事項となりました。ですので、札幌市への報告という形で提出したいと思っております。

いつも儀式があって申しわけないのですけれども、私から木下課長に手渡しをさせていただきます。

[報告書の手交]

○永井会長 よろしく願いいたします。

○事務局 (木下企画調整担当課長)

このたび、報告書をいただきました。

永井会長を初め、各部会あるいはプロジェクトチームの方、また、それぞれの地域で協議会の活動を支えてくださっている方々が、年間を通して活発な活動をいただいたその成果

がこの厚みにあらわれていると思っておりますので、まずは、それについて感謝を申し上げます。

今回の報告内容につきましては、私ども障がい保健福祉部を初めとしまして、庁内で共有を図りながら今後の取り組みに生かしてまいりたいと考えております。

皆様方それぞれのお立場において、日々、繁忙のことと思います。ただ、この自立支援協議会が始まって10年以上の経過がある中で、段階的に施策の充実が図られたり、それぞれの地域において関係の皆様方のネットワークが形成され、活動の広がりを見せていただいている、そのような実績の積み上げを私どもは実感しているところでございます。

何とぞ、今年度におきましても引き続きのご協力を頂戴できれば幸いです。このたびは、ありがとうございます。

○永井会長 ありがとうございます。

年間を通じて本当にお忙しい中、自立支援協議会の活動をありがとうございます。今後とも、どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

また、札幌市の皆様にもご協力いただきまして、どうもありがとうございます。

続きまして、さっぽろ障がい者プラン2018について、事務局からお話しいただきます。

さっぽろ障がい者プラン2018は、共生社会の実現を基本理念として掲げ、全ての障がいのある人たちが地域で安心して生活していくことができるよう、策定の際に自立支援協議会からも意見をお伝え続け、2018年（平成30年）3月に策定されております。

このプランの見直しは3年ごとですので、すぐにやっております。これに関する背景や方針、具体的なスケジュール等につきまして、障がい福祉課の平塚事業計画担当係長よりお願いいたします。

○事務局（平塚事業計画担当係長） 事業計画担当係長の平塚と申します。よろしくお願い申し上げます。

今日ご説明するのは、昨年3月に策定しましたさっぽろ障がい者プランの一部改定の時期が2021年の3月ということになりまして、そのスケジュールなんかをお伝えしたいと思います。

また、ここに書いてありますとおり、今、私たちはアンケート調査票のたたき台をつかっておりまして、来月の6月になってから、自立支援協議会の皆様はその調査票の原案をお送りしてご意見をいただきたいと思っております。そのお願いも含めて、今回、説明する時間をいただきました。

①の一部改定の考え方ですが、3年後の2021年3月に一部を改定します。全面改定ではなくて一部なのですけれども、もともと障がい者プランは6年の計画になっておりまして、3年ごとに見直す仕組みになっておりました。

今年度の2019年度は実態調査などをしまして、今日も皆さんでいろいろご議論されていきましたけれども、いろいろな課題を整理して集約するということが今年度の作業です。

そして、来年度の2020年度は、具体的な改定内容を検討するということになると思います。

改定のプランがどういうイメージかという、この囲みの中に書いていますが、札幌市が目指すべき「共生社会」ということで、札幌市の共生のイメージをもう少し具体的に落とし構築したいということがあります。それから、障がい者施策を取り巻く全国的な動向や札幌市が独自に抱えている課題、今日もいろいろなお話がありましたけれども、そういった課題に応じて、この改定のプランに新たな方向性を盛り込みたいと考えております。

その材料として、実態調査をするのですけれども、②のところでは。

まず、前回のアンケートを3年前にしていますけれども、対象は障がい当事者として、障がい者、障がい児と施設に入所されている方、精神科に長期入院中の方、さらに、一般の市民の方のほか、今回始めてですけれども、サービス提供事業所の方々にアンケートをしたいと考えております。

アンケートの内容については、まだつくっている途中ですが、前回との比較の必要性から設問は基本的には前回ベースで、先ほどお伝えしたように、全国的な課題や札幌市が独自に抱える課題に応じた内容を重点的に取り入れたいと思っています。

例を挙げますと、今日も随分話題に出ていました災害時の対応です。また、昨年6月に、障がいのある方の文化芸術振興にかかわる法律が整備されておりまして、文化芸術にかかわることがあります。また、最近では、医療的ケア児の対応なども重点的な課題となっておりますので、そういったことについてもアンケートができればと思っています。

また、今回はアンケート調査と並行して、例えば、障がい当事者団体へのヒアリングなど、一律のアンケート調査だけでははかれないような的確なニーズ把握をするといった取り組みを実施する予定です。

参考に、今回の調査実施についてですが、今お伝えしたように、アンケートだけではなく、ヒアリングをしたり、他都市の事例を分析するなど多様な視点からの確に課題を抽出したいと考えております。今までは、私たちは直営でアンケート調査をしていましたけれども、調査分析にすぐれた専門業者、コンサルタントに委託して、私たちが協力しながら調査を進めたいと考えております。この業者については、募集中で、有識者を含めた委員会を選定することになります。

次に、③アンケートの対象と調査項目です。まず、障がい者・障がい児へのアンケート調査ということですが、これは難病の方も含まれますし、障がい児については、保護者の意向などもここに含まれると思います。

大まかに言いますと、生活実態や意向などを幅広く把握するような項目になりまして、回答は郵送で送付します。等級や種別の偏りがないように抽出することになります。

設問の例は、右に書いてあるように、サービスの満足度、あとは仕事や収入、住まい、また、防災のことがあります。これは、昨年の地震のときにどうしていたかということも設問に入れたいと思います。さらに、スポーツや文化芸術体験、それから、差別の経験を

しているかどうかなど、施策全般の認知度や要望などもここに入ると思います。

裏面ですけれども、施設入所中の方や精神科に長期入院中の方に関する調査も行います。

この目的としては、主に地域移行に関する課題または希望を把握するような調査です。この調査を分析して、地域移行をどういうふうにもっと進めていけばいいのかということが出てくると思います。これは、一旦、施設、病院宛てにメールをして書いていただきます。

コミュニケーションがとれる方ととれない方がいらっしゃると思うので、もちろんご本人とコミュニケーションがとれて、ご本人の意向がきちんと確認できる方はそうしていただきますし、そうではなければ、職員の方が書くような形になると思います。いずれにしても、本人の意向を直接に把握するような方法がどこまでとれるかについては、これからちよつと検討したいと思っています。

設問の例は、右に書いてあるように、希望や可能性、地域移行後に必要なサービスとそれに関する課題などになっております。

また、障がいがあるなしにかかわらず、一般の市民の方々に対するアンケート調査ですが、障がい者施策のこと、どういったことを知っているとか、ボランティア活動に関することなどの意識調査をしたいと思っています。

最後に、サービス提供事業所へのアンケート調査ということで、今回は、当事者側の視点だけではなく、支援者側のいろいろな課題や意識などを把握したいと考えております。全ての事業所には難しいと思うのですが、ある程度の数を抽出して調査をしたいと思っています。

最後は、参考までに、今、想定しているスケジュールの部分を載せています。

今、調査票の原案をつくっております、先ほどお伝えしたように、6月に皆さんのご意見をお聞きしたいと思っています。

その後、調査票の原案が完成し、恐らく9月に施策推進審議会に諮りまして、9月から11月の間の約1カ月間くらいになると思いますが、アンケートを実施します。

あわせて、今回、アンケート調査を委託する業者に、どういう形になるかはわからないのですが、その共生社会ということについて、もう少し、こう市民と一緒に課題を共有したり、市民と一緒に考えたりするような機会をつくりたいと考えております。並行して、いろいろな団体へのヒアリングなんかも進めていきたいと思っています。

そして、最終的に3月に札幌市に報告していただくと。その報告していただいた内容をもとに、改定の方向性を検討し、来年度の初めくらいから検討し、具体的に新しい事業を、盛り込めるものを盛り込み、改定した計画案をつくっていき、その途中で皆さんにもいろいろ意見を聞きながら、最終的には2021年の3月に改定計画ができ上がるというそういったスケジュールになっております。

冒頭で説明したとおり、調査項目のご意見を皆様からいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

また、再来年3月に向けまして、推進計画案へのご意見をいただく機会がいろいろあると思しますので、それについてもよろしくお願いいたします。

以上、説明を終わります。

○永井会長 ありがとうございます。

調査項目についての意見は、いま、この場で出すのですか。

○事務局（平塚事業計画担当係長） 済みません。説明が不十分だったのですが、6月になりましてから、皆さんのところにメールか郵便かでお送りしますので、それを読んでいただいて、ご意見をいただく形になっております。

○永井会長 ありがとうございます。

ということですので、それをご検討いただくということですが、今、この場でご質問、ご意見等がありましたらお願いいたします。

○小谷副会長 自立支援協議会の副会長をしている小谷と申します。

障がい当事者の立場からちょっとお聞きしたいのですが、地域で生活している者は地域の生活で、そのサービスについてとか意見を述べられると思うのですが、この施設に入所されている方の調査というところで、特に精神障がい者とか、知的障がい者、身体障がいもそうなのですが、地域生活を送った経験が少ない方、また、子どもさんから入られている方が地域移行の希望の可能性とか、必要なサービスとか、移行に関する課題と言われても、長い間施設に入っていると、そういうイメージも湧かないと思いますし、適切な調査に本当になるのかという懸念を持っています。

これはさっぼろ障がい者プランということで行うのですが、できるなら障がい当事者で地域で生活している者がこういう病院施設に行って、どんな重度の障がいがあっても地域で暮らせるのだということをお話するような、夢が持てるような、そのような話がなされていて、その中でさらに考えていける、そういう案を考えていけるということができるような調査になってほしいというのが私の願いです。今のスケジュールをいただいた中ではとても無理なことだというのは承知の上でお話ししているのですが、今後、そういうことを参考にさせていただいて、障がい者プランに、本当の当事者の声が届くような、また、本人のその思いが届くような調査になって結果が出されいくような方向で動いてほしいというのが強い願いであります。

よろしくお願いいたします。

○事務局（平塚事業計画担当係長） ありがとうございます。

前回の3年前の調査を実施するときにも同じようなお話をいただいていたのです。ですから、今はまだ具体的にどうこうということは言えないのですが、今ちょっと長く施設に入っている方、病院にいらっしゃる方の、その本当の気持ちみたいなのを酌み取れるような方法を今考えているところなので、もしかしたらご相談させていただく機会もあると思うのですが、そのときはよろしく願います。

○永井会長 ほかにありませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○永井会長 では、6月の意見聴取の機会をご利用いただいて、今、小谷委員がおっしゃったとおり、このアンケートがベースに計画がつけられていくことになりまして、アンケートをどう聞くかというのはとても重要なことかと思っておりますので、こちらについてもご意見をお寄せいただけたらと思っております。

それでは、最後に、札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるから情報提供をいただきたいと思っております。

○坂井さん(山本委員代理) 今日は代理で出席させていただいております札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるの坂井です。

おがるは、発達障がいに関する地域支援体制づくりの一部をいろいろとやっております。きょうは、その中の幾つかをピックアップして資料を持ってきました。もう時間がないので、今日は読み上げたりはしませんが、お時間のあるときに読んでいただけたらと思っております。

印象としては、僕は専門家向けの研修をいろいろとやっていたのですが、民生委員やケアマネさんなど町内会の方とか、そういったところから最近はいろいろな研修ニーズや相談が来ることが多いというのが最近の事情です。

以上です。

○永井会長 時間に配慮していただきまして、ありがとうございます。

今のおがるさんの活動報告につきまして、何かご質問、ご意見等がありますか。

(「なし」と発言する者あり)

○永井会長 おがるさんにつきましても、例年、専門機関としてさまざまな研修とか、ネットワークづくり、そして、直接的な支援についてもご尽力いただいて、どうもありがとうございます。

最後に、今日の議論全体を通して改めてご意見がありましたらと思っておりますが、いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○永井会長 そして、連絡・報告事項としてお持ちの方をお願いしたいと思います。事前にお伝えいただいている東谷委員からご報告いただいてよろしいでしょうか。

○東谷委員 時間がない中で申しわけございませんが、済みません、私ごとで大変恐縮なのですが、私は今勤めている旭山病院を8月末日で退職することになりまして、この自立支援協議会には医療機関という立場で参加させていただいていたものですから、今日が最後の参加、出席になります。

後任の方につきましては、今後、運営会議と永井会長と人選を考えさせていただきたいと思っております。

短い期間ではございましたけれども、本当にいろいろなことを学ばせていただきました。

どうもありがとうございました。(拍手)

○永井会長 本当に驚かれた方もいらっしゃるかと思いますが、東谷委員には、先ほど話題に出ていました精神障がい者地域移行推進プロジェクトで取りまとめとしてご尽力いただいたほか、この全体会の席でも、特に精神科のお立場でご意見をいただけていたので、とても心強い存在でありました。おやめになるのはとても残念なことですが、後任の方もご推薦いただけるということですので、今後、運営会議で検討を進めていきたいと思っております。

それでは、ほかにお持ちの方はいらっしゃいますか。

(「なし」と発言する者あり)

○永井会長 それでは、以上で本日の協議を終了したいと思います。時間が少し過ぎましたが、事務局にお返しいたします。

3. 閉 会

○事務局 (石田就労・相談支援担当係長) 永井会長、ありがとうございました。

また、委員の皆様方には長時間ご審議いただきまして、まことにありがとうございました。

そして、本日は、たくさんの方に傍聴いただきました。傍聴の方々もご協力をありがとうございます。

次回の全体会につきましては、別途、事務局から皆様の予定をお聞きして開催する予定です。

最後に、傍聴の皆様は、お手元にある意見参加シートへのご記入後、そのまま机に置いていただけましたら、後ほど事務局にて回収いたしますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、これをもちまして、第32回自立支援協議会を終了いたします。ありがとうございました。

以 上

この内容については、出席者による確認を経て、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成:札幌市障がい福祉課)